

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700109		
法人名	社会福祉法人本郷福祉会		
事業所名	グループホームゆすら		
所在地	福岡県みやま市瀬高町本郷2036番地1 (電話) 0944-63-2122		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 6 日	評価結果確定日	平成 27 年 3 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご本人の生活習慣を大切に、今まで続けて来られた事を入居後も継続できるよう支援をしています。一日のおおまかな流れはありますが、入浴時間も自由、時間で区切ったりはせずご本人のペースで生活して頂けるようにしています。屋内活動では手芸やゲーム、体操、書道、絵画、料理、軽スポーツ、季節ごとのイベントなど多彩な活動を取り入れています。屋外活動では、ホーム周囲の草取りや農作業、毎日の散歩を行い、買い物や季節にちなんだ見物へドライブなどへも積極的に出かけています。PTも週に1度来訪し、身体機能のチェック、運動のアドバイスを行っています。演歌歌手・楽器演奏・講義・踊り等のボランティアをお招きし、地域の方々にも周知し積極的にイベントを開催しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 2 月 24 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

周囲が田園に囲まれており、農道は利用者の毎日の散歩コースになっている。ご近所は農業に従事されている家が多く、農繁期などは時間・時期の制限があるが、出前講座の開催や民生委員の研修会など、イベントを積極的に事業所で開催し、地域へのアピールを行っている。「気軽に相談に来てもらえる」事業所を目指しており、隣市の方からの相談もある。事業所内は天井も高く、それぞれがゆっくりと過ごせるように、家具をそのつど動かすなど利用者本位の空間づくりに努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 継続と共生2. 自立と自身3. 安心と安全 4. 自己で決定5. 地域と交流の5つを元にスタッフの意識を統一・共有し、日々実践につなげるように努力しています。	開所時に、理念については職員間で話し合いを行った事業所独自の理念がある。毎朝の朝礼・ミーティング時に職員間で話す機会があり、日々のケアの中で、声かけや態度など実践に繋がる取り組みを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区費を納め、回覧版を回し、入居者様が楽しめる様にとペットボトルで制作された風車を注文して飾って頂いています。収穫時には野菜を頂いたり、毎日の散歩時に挨拶はもちろんのこと、時には立ち話をすることもあります。	町会・自治会等に参加し、回覧板で事業所便りを回覧している。道路愛護や清掃活動への参加や施設のイベントへ地域住民へ参加の声かけを行ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流を行っている。散歩中には地域の方との交流を行い、野菜や花などを持って立ち寄ってもらう関係を築いている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4月に開設したので、施設を知って頂く為に市が行っている生涯学習まちづくり出前講座を8月～10月まで月1回行い、地域の方へは回覧板にて知らせ、11月には校区社協の役員研修の受け入れを行い、施設の説明や認知症の方を理解して頂く為にお話しをさせて頂いた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月月に行っている。区長会長・民生委員・区長・老ク会長・家族代表・市役所より来て頂き、事業所からの報告やおたずねなどを聞き、各方面より意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者・サービスの状況等の報告を行っている。会議の中で民生委員の研修の受け入れや事業所便りの回覧について相談を行い、実施することができるようになるなど、サービスの向上へ繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を当事業所内で開催（2ヶ月に1回）、地域密着型サービス事業者連絡協議会（不定期開催）および柳川みやま地区介護サービス事業者連絡会（不定期開催）に参加し、みやま市担当者と当事業所の取り組み等を伝達・情報交換を行い協力関係の構築に努めている。	市役所の懇談会への参加や入所に関する相談の対応など、協力関係を築く取り組みを行っている。また、事業所からケアについて相談がある時は出向くなど、日頃から報告・相談を行い、事業所の実情やケアの取り組みを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを全職員心がけ、日頃より職員同士声を掛けながら対応を行っている。「虐待及び身体拘束防止の手引き」をいつでも見れるようにしている。	事業所の表通りは交通量が多いため、運営推進会議で危険性の指摘があり、表通りに面した玄関には外出用にセンサーを使用している。利用者の外出傾向を把握しており、状況に応じて付添い・散歩等の支援をしている。身体拘束の研修を実施し、職員全員が参加あるいは内容が確認できるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度虐待の防止についての研修は、受けていないが、以前受けた資料をいつでも見れるようにしている。常に、身体的・精神的虐待に繋がらない様に職員同士注意しあうように心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学びその資料を基に研修をおこなった。今現在利用されている方はいないが、今後も学ぶ機会を持ち理解を深めたい。	権利擁護に関する制度について理解を深めるため権利擁護の外部研修に参加している。職員は伝達研修・内部研修に参加している。制度に関しては、契約時に利用者・家族へ説明を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、熟読して頂いてから説明を行うようにしている。その時、疑問に思われたことを尋ね、理解して頂くように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時より家族とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築けるように心掛け、面会時などに必ず要望などを聞き、出来る事から行うように心掛けている。	利用者・家族が運営推進会議に参加し、意見を述べる機会がある。玄関入口には意見箱を設置している。管理者・職員は利用者の思い・意見を聞き取れるように接しており、家族と面会時には話をして要望・意見を運営に反映させている。民生委員を通して地域への行事への参加が実現している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っているミーティング、毎朝の申し送り時、日々のケアでの気づきを聞き検討を行い反映させている。	全職員で自己評価に取り組み、振り返り・気づきの機会になっている。管理者は朝礼・ミーティング時に、職員の意見を聞く機会を持ち、職員は管理者へ相談・意見を伝えて運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から事業開始し、手探りの状態であるが、現場の職員からの意見を傾聴し必要な部分は反映し、労働環境の整備・調整を行っている段階。現場の職員の働きやすい労働環境の構築を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していきいきと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	当法人の定年は70歳と規定しており、募集・採用に関して性別や年齢の制限はない。年齢・性別ではなく各個人の能力や人間性を尊重する方針。	職員は20歳代から60歳代と幅広く、採用については性別・年齢等に制限はない。働きやすい勤務体制の調整を行い、いきいきと働ける環境を整え、資格取得等ができるよう配慮に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月に1回職員会議を開催し、ご利用者さまに対する接し方等の問題がある場合には話し合いを行っている。	月1回のミーティング時や内部研修の実施、外部研修への参加により、職員に対して人権教育・啓発に取り組んでいる。接し方に問題がある時は話し合いを行い、周知徹底を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修には積極的に受けしてもらい、研修後の報告を全員に行うことで知識・技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会（不定期開催）および柳川みやま地区介護サービス事業者連絡会（不定期開催）に参加し、研修会や情報交換を行っている。（公社）日本認知症グループホーム協会に加入している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの美容室や、よく通われていた場所等を聞き、希望があれば、ご自宅や以前通われていたデイサービス等へも連れて行っていることを伝えながら不安を軽くし、困っていること、要望等を聞くことに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年2回発行している通信を見て頂きながら、どのような生活をしているか他の入居者様の笑顔を見て頂き、困っていることや要望等を聞きだせる和やかな雰囲気作りを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本施設を家族会議の場として提供したり、顔馴染みの民生委員の協力を得て外出したり、家族の了承が得られれば、ご自宅へ連れて行くことができることをご本人に伝えている。馴染みの美容院、クリーニング店を探す対応も行った。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫が得意な方には、縫い物をして頂き、男性も台所に立ち料理をされる場面もあります。いつも一緒に庭の草取りをしているので、「そろそろまた草を取らやんね」と声を掛けて下さいます。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週末には、御家族と外食に行かれたり、自宅の畑の草取り、植え付け、収穫を楽しみにしておられ、帰園時には、時々収穫した野菜のおみやげがあります。職員は、御家族が訪問しやすい雰囲気作りを心掛けています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の散歩コースで御家族に会ったり、近隣の方々にも親しく声を掛けて頂き、その繋がりがりから慰問に来て頂いた事もあります。友人の方が月1~2回面会に来られる方もあり、友人に出会った時の笑顔を大切にしていきたいと思っています。	利用者の知人・友人、民生委員の協力もあり、地域行事への参加が継続できている。管理者・職員は、利用者や家族から馴染みの人や場等について聞き取りを行い、友人との外出・訪問等も継続できるように支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間でそれぞれの個性を認め合いお互いを気に掛ける関係が出来つつあるように思います、時には、意見がぶつかり合う事もありますが、職員が間に入りフォローをしています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退去された方の所へアルバムを作りお見舞いに行ったり、入院が長引き入居出来なくなられた方の御家族様へは、いつでも相談があれば連絡をして頂くよう伝えています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が意思表示できる方はもちろん言葉数が少ない方、遠慮しがちな方は入浴時個別になった時に希望をスタッフに聞いてもらい、歩行状態・速度にあわせて買い物同行していただいている。実行困難な要望時は家族に協力を依頼している。	日々の関わりや散歩へ行った時、入浴時などで個別に話を聞く機会を持ち、利用者の思いや希望、意向等の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、関係者等から話を聞くなどして、暮らし方については本人本位で生活ができるように検討をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様を担当制にし、個別のひもときシートを元に、以前の生活環境を把握し、ご自身の畑に連れて行ったり、外出の際、生まれた場所や自宅の前を通ったりしている。これまでのサービス利用の経過は以前のケアマネに会い話を聞いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課となっている園のまわりの散歩やラジオ体操、園の畑の草取り、調理補助、洗濯物をたたむ作業、行事の飾りつけ、掃除に「手伝っていただけませんか」と声掛けし、ご本人のできる力、わかる力を発見していくことに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できることができなくなった事より、できなかったことができるようになった事、興味をもつようになった事に目をむけ、家族の方へ家族との外出・外泊・自宅へ連れて帰ってほしい等の協力を呼びかけている。自宅へ連れ帰ったことにより協力してくださる近所の方の顔が把握できた。	利用者主体の視点で、本人・家族の意見や要望を反映し、全職員と関係者で意見や気づきを出し合い介護計画を作成している。見直しは3ヶ月に1回行っており、日々の関わりの中で、本人の変化や家族の希望に応じて柔軟に見直している。家族へ報告し同意を得ている。職員は介護計画を日々のケアや個人記録を記入する際に意識し取り組んでいる。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回開いているミーティング以外でも日々、ケアの気づきをスタッフから聞き情報を共有しながら上手くいったパターン、上手くいかなかったパターンを出し合い、医療関係への細かな報告により薬を調整して頂き、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、歯科往診、理美容の訪問、民生委員の来訪、常勤の看護職、週1回のPTによる機能訓練、2ヶ月に1度の社会福祉協議会との交流を通じて連携をとっている。又、市の出前講座を利用して入居者様・職員の知識向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元開催のお祭りや行事等に参加し、顔馴染みの方たちとの交流を楽しんでいただいている。本人の趣味・興味のあるものを考慮の上、外出支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族が希望されるかかりつけ医へ職員が付き添う方、御家族が付添で受診される方には、介護経過報告書とバイタル表を持って行って頂き、往診を希望される方は、往診時報告を行っています。又急変時には、連絡し指示をもらい対応している。皮膚科など専門医に受診した時は、かかりつけ医へ報告を行っている。	かかりつけ医は本人と家族の希望する医療機関や認知症の専門医への受診や往診を支援している。通院は家族や事業所の看護師が付き添い受診している。通院の方法や情報の内容などは家族と話し合い共有している。また、本人のかかりつけ医と情報を共有し適切な指示をもらっている。緊急時には対応してもらう協力医療機関もある。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時やトイレ介助時など日々の介助の中での気づきや本人の訴えなど、看護職へ伝えて、必要な時は、受診が出来るようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室との連絡を密に行い情報交換に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書において重度化した場合の対応に係る指針の説明を行っている。かかりつけ医と連携をとりながら、本人・御家族様の気持ちに添えるように支援していきたい。	利用開始時に、重要事項説明書にて明文化している「重度化した場合の対応に係る指針」について説明している。職員や関係者で方針を共有し、本人と家族の思いや意向を大切にしながら支援できる体制を整えている。開設から10ヶ月の事業所は、5年先の利用者の状況を見据え、今後の課題として前向きに取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、管理者及び常勤の准看護師が対応をおこなっている、緊急時の対応についての手技は、ファイルにとじておりいつでも学べるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、日中を想定しての避難訓練を実施。消防員より説明をして頂いた。年度内に自主訓練にて、夜間を想定した訓練と非常用備品の確認を行う予定。地域との協力体制は築いている状態には達していない。	マニュアルを作成しており、11月29日には入居者全員参加で、昼想定での避難訓練を実施している。また、日頃から自主検査等確認項目にて確認に努めている。3月に予定している2回目の避難訓練については、地域の回覧板で告知し参加の呼びかけを行うとともに、運営推進会議で委員から地域住民へ参加の呼びかけと参加の協力を依頼する予定である。非常用備蓄の食料・飲料水・は台所、備品は倉庫に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆすら通信、新聞等への写真の利用に関しては、本人・家族の同意を頂いている。個々の自尊心やプライバシーを配慮した声掛けや対応を心掛け、自室へ入室する際は、必ず本人の同意を得て行っている。	職員は、日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮をしている。その関わり方について、管理者が点検して速やかに対応し、ミーティングや申し送りノートで職員の意識向上を図っている。また、職員同士で気づきがあれば話し合い、注意し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とコミュニケーションを取りながら思いを聞くなど自己表現が出来る雰囲気作りを心掛け実現出来る様に努めている。食事、飲み物等など可能な限り本人様の望まれる適温・適量にて提供している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんど毎日散歩の希望があり、園周りの農道を散歩している。散歩時に、野菜の収穫、ハウス周りの木々や草花を見て季節感を味わい楽しんでいる。天気の良い日は、ドライブや買い物に出かけ、園内では好きなテレビ番組を見たり、新聞や本を読まれたりや個々に楽しみの時間を過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や化粧品等の持ち物については制限せず、本人のスタイルやこだわりを尊重し、その人らしさを損なわないよう配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に買い物や調理の下ごしらえをし、お茶を入れて頂いたり食器洗いや下膳の声掛け、おぼん拭きなど個々の能力・レベルに合わせ支援している。	旬の食材での季節感や行事食、お祝い膳や地域性に配慮した献立を心がけ、利用者と職員は、買い物・調理・盛り付け、後片付けを一緒に行っている。利用者それぞれの食事のペースを大切に、食欲を引き出せるよう工夫に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員全員で情報を共有し状態に合わせて補給、補食を行うようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、セッティングや言葉かけ、見守り等個々に応じた支援を行い、就寝前には、毎日義歯の洗浄もしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間共に全員トイレで排泄をされている。排泄チェック表にて、1人1人の排泄パターンを把握するよう努めている。	利用者ひとり一人に合わせて、下着やリハビリパンツ、パットなどを、日中・夜間・外出時などその時々状態に応じて使用している。トイレの“のれん”に小鈴をつけ、察知した職員が他の利用者に気づかれないよう介助を行うなど、トイレで気持ちよく排泄していただけるよう配慮している。夜間帯もほぼ全員の利用者がトイレでの排泄を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を過ごし、水分の補給と適度の運動を行い、食事では便通や栄養を考え献立を考えている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	当日のバイタルを確認し、前々日及び前日に拒否された入居者様を優先に声を掛けさせて頂き、希望の時間で入浴して頂いている。拒否された時は、足浴を行っている。	本人の希望に合わせて入浴の支援を毎日行っている。風呂の湯は毎回入れ替え、菖蒲湯・ばんべい湯・ゆず湯などを楽しんでいただいている。入浴拒否の利用者には職員間で連携した声かけのタイミングで入浴をしてもらっている。また、無理強いせず足浴を試みて、気持ちよさを感じてもらい、次回入浴に繋げている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の夜間の睡眠状況や体調に合わせて、昼間に短時間の午睡の声掛けを行ったり、夜間早めに休んで頂いたり、その時々状態に応じて声をかけさせてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用ファイルに薬の説明書を綴じており、いつでも確認できるようにしている。排便の確認や体調など、1日の様子を朝夕の申し送り時に報告し、変化を見逃さないように心がけている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前和裁をされていた方には、縫い物や繕いものをお願いしたり、畑をされていた方には、草取りや耕しを一緒にして頂いたりしている。散歩、外出、塗り絵、習字や共同制作のちぎり絵、工作など季節に合わせ、行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出（買い物・ドライブ等）は、天候や体調に合わせて日常的に行っている。関連施設の行事に参加する事もあり、入居者様の地域のいきいきサロン（健康教室）などスタッフや地域の民生委員の方の協力を得て参加され楽しまれている。週末の外出やお盆、正月の外出、外泊など御家族の協力を得て支援している。	事業所周辺の農道は、利用者にとって毎日のほどよい散歩コースになっている。家族の協力による週末の外出のほか、民生委員の協力で入所前から参加している地域のサロンへ継続して出かけている利用者もいる。利用者ひとり一人の体調や希望に応じて利用者の思いが実現できるように検討し外出を支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4名の方のお小遣いを預かっていて、必要に応じて対応している。家族管理の元、お小遣いを所持している方もいらっしゃるので、家族と話しながら買い物などの対応を行い支払をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、家族への電話の取次ぎを行っている。知人への年賀状の投函の手助けや、携帯電話を所持されている方には、充電及び操作の手助けを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活に支障がないように各所に目印をつけたり、音・室温・光等に配慮しストレスとならないようにしている。玄関や随所には、季節を取り入れた手作りの作品を飾り、いつでもその時々季節を感じ居心地良く過ごして頂けるように心掛けている。	新築の事業所は天井や窓の位置が高く、明るく清潔で整理整頓され、室温・換気・色彩・音・光などに配慮している。家具も家庭的な雰囲気ですぐに設えられ、畳コーナーは利用者が居心地よく過ごせる場となっている。利用者の手づくりによるのれんや書道のほか、折り紙や頂いたお雛様、花を飾り季節感を醸しだしている。随所に心遣いを感じる佇まいで利用者は安心して過ごしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々とした空間のなかに食堂スペースとリビングスペースをとり、リビングにはソファ・畳のスペース・こたつを設け、好きな場所でレクリエーションや入居者様同士ゆっくりとした時間を過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってくつろぐことが出来、安心して暮らしていけるように御家族が、仏壇・タンス・テーブル・イスなど持って来られている。	使い慣れた物を本人と家族で選び、寝具や座布団、タンス、椅子、時計、ラジオ、化粧品、鏡、写真、本、シクラメンの植木鉢等が持ち込まれている。自宅で使っていた物にかこまれ、安心して過ごせる場所になっている。また、季節の衣替えも本人や家族と職員との関係を深めながら一緒に行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の環境整備、トイレ・浴室・廊下には手すりを付け、玄関には長椅子を置き転倒の不安なく靴を履いて頂けるように考慮し、密な声掛け見守り、居場所確認にて安全防止に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない